

**SKIN PREPARATION FOR EXTERNAL USE**

**Publication number:** JP10203920

**Publication date:** 1998-08-04

**Inventor:** TSUKADA HIROYUKI; NISHIYAMA SEIJI

**Applicant:** SHISEIDO CO LTD

**Classification:**

**- international:** A61K8/96; A61K8/00; A61K8/02; A61K8/03; A61K8/30;  
A61K8/44; A61K8/97; A61Q1/00; A61Q1/12;  
A61Q19/00; A61Q19/08; A61K8/96; A61K8/00;  
A61K8/02; A61K8/03; A61K8/30; A61Q1/00;  
A61Q1/12; A61Q19/00; A61Q19/08; (IPC1-7):  
A61K7/00; A61K7/48

**- European:**

**Application number:** JP19970021059 19970120

**Priority number(s):** JP19970021059 19970120

**Report a data error here**

**Abstract of JP10203920**

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To obtain a skin preparation for external use, comprising the extract of the rhizome of *Belamcanda chinensis* in the family Iridaceae and arginine (salt), capable of preventing and improving the roughness of skin, preventing the elimination of the moisture and tension of the skin, thus enhancing effects for preventing the ageing of the skin. **SOLUTION:** This skin preparation comprises (A) 0.0001-30wt.% of an extract obtained by immersing the rhizome of *Belamcanda chinensis* in the family Iridaceae in an extraction solvent or thermally refluxing the rhizome together with the extraction solvent and subsequently filtering the extract solution, (B) 0.01-3wt.% of arginine (salt) (e.g. arginine hydrochloride), and, if necessary, (C) conventional components used for skin preparations for external uses, such as cosmetics, quasi medicines and medicines, etc. The skin preparation for external use is used as a cosmetic (including skin cosmetic and hair cosmetic), a medicine, a quasi medicine, etc., in the form of an ointment, a cream, an emulsion, a lotion, a pack, a bath agent, etc.

---

Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-203920

(43) 公開日 平成10年(1998) 8月4日

(51) Int.Cl.<sup>5</sup>

A 6 1 K 7/00

識別記号

F I

A 6 1 K 7/00

K

Q

U

W

7/48

7/48

審査請求 未請求 請求項の数2 F D (全 6 頁)

(21) 出願番号

特願平9-21059

(22) 出願日

平成9年(1997) 1月20日

(71) 出願人 000001959

株式会社資生堂

東京都中央区銀座7丁目5番5号

(72) 発明者 塚田 弘行

神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株  
式会社資生堂第一リサーチセンター内

(72) 発明者 西山 聖二

神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株  
式会社資生堂第一リサーチセンター内

(74) 代理人 弁理士 ▲高▼野 俊彦 (外1名)

(54) 【発明の名称】 皮膚外用剤

(57) 【要約】

【目的】 肌荒れ防止肌荒れ改善効果及び皮膚の潤いや  
はりの消失などを防いで老化を防止する皮膚外用剤を提  
供すること。

【構成】 アヤメ科のヒオウギ抽出液と、アルギニンお  
よび／またはその塩の一種又は二種以上とを含有するこ  
とを特徴とする皮膚外用剤である。

**【特許請求の範囲】**

**【請求項1】** アヤメ科のヒオウギ抽出液と、アルギニンおよび／またはその塩の一種又は二種以上とを含有することを特徴とする皮膚外用剤。

**【請求項2】** アヤメ科のヒオウギ抽出液とアルギニン塩酸塩とを含有することを特徴とする皮膚外用剤。

**【発明の詳細な説明】****【0001】**

**【発明の属する技術分野】**本発明は皮膚外用剤に関する。さらに詳しくは、肌荒れ防止、肌荒れ改善効果と皮膚の潤いやはりの消失を防いで老化を防止する効果を有する皮膚外用剤に関する。

**【0002】**

**【従来の技術】**従来、皮膚外用剤は、その配合成分である天然物から抽出した各種原料や合成或いは精製された原料の持つ保湿能及び皮膜形成等の物理作用により、肌荒れ防止・改善効果及び皮膚の潤い・はりを持たせて老化防止効果を持たせてきたがその効果はいまだ十分でなかった。

**【0003】**

**【発明が解決しようとする課題】**本発明者等は、肌荒れ防止・改善を図り、皮膚の潤い・はりの消失などを防いで老化を防止する効果を高める皮膚外用剤を得るべく鋭意研究した結果、女性ホルモンに似た作用のあるアヤメ科のヒオウギ抽出液と、アルギニンおよび／またはその塩を皮膚外用剤に配合するとこの目的が達成できることを見出して本発明を完成するに至った。

**【0004】**本発明は、肌荒れ防止・改善を図り、皮膚の潤い・はりの消失などを防いで老化を防止する効果を高める皮膚外用剤を提供することを目的とするものである。

**【0005】**

**【課題を解決するための手段】**すなわち、本発明は、アヤメ科のヒオウギ抽出液と、アルギニンおよび／またはその塩の一種又は二種以上とを含有することを特徴とする皮膚外用剤を提供するものである。

**【0006】**また、本発明は、アヤメ科のヒオウギ抽出液とアルギニン塩酸塩とを含有することを特徴とする皮膚外用剤を提供するものである。

**【0007】**以下、本発明の構成について詳述する。本発明の必須成分であるアヤメ科のヒオウギ抽出液とは、アヤメ科のヒオウギの根茎から抽出される液体で、抗炎症作用がある漢方薬として知られているものである。本発明に用いるヒオウギ抽出液はヒオウギの根茎を抽出溶媒と共に浸漬または加熱還流した後濾過して得られる。本発明においては市販品を用いることが出来、例えば、ファルコフレックスヒオウギ（一丸ファルコス株式会社製）などがある。

**【0008】**ヒオウギ抽出液の皮膚外用剤の配合量は、抽出液の純度によっても異なるが通常抽出液として皮膚

外用剤全量中0.0001～30重量%、好ましくは0.01～1重量%である。0.0001重量%未満では本発明の効果は発揮されず、30重量%を越えると製品の製造工程上好ましくない場合がある。

**【0009】**本発明で用いられるアルギニンは塩基性アミノ酸の一種であり、その塩としては、例えば、アルギニン塩酸塩、アルギニン酢酸塩、アルギニンリン酸塩、アルギニングルタミン酸塩、アルギニンアスパラギン酸塩等が挙げられる。本発明においては、アルギニン塩酸塩が特に好ましく用いられる。本発明ではこれらの中から1種または2種以上を併用して用いることができる。

**【0010】**本発明におけるアルギニンおよび／またはその塩の配合量は、皮膚外用剤中に0.01～3重量%が好ましく、さらに好ましくは0.05～1重量%である。0.01重量%未満では本発明の効果を発揮し難く、一方、3重量%を超えて配合しても効果の増大は期待できない場合がある。

**【0011】**本発明の皮膚外用剤には上記した必須成分の他に、通常、化粧品、医薬部外品、医薬品等の皮膚外用剤に用いられる他の成分、例えばアボガド油、パーム油、ピーナッツ油、牛脂、コメヌカ油、ホホバ油、マカデミアナッツ油、カルナバロウ、ラノリン、スクワラン、流動パラフィン、オキシステアリン酸、パルミチン酸イソステアリル、イソステアリルアルコール等の油分、グリセリン、ソルビトール、ポリエチレングリコール、ピロリドンカルボン酸およびその塩、コラーゲン、ヒアルロン酸およびその塩、コンドロイチン硫酸およびその塩等の保湿剤、パラジメチルアミノ安息香酸アミル、ウロカニン酸、ジイソプロピルケイヒ酸エチル等の紫外線吸収剤、エリソルビン酸ナトリウム、セージエキス、パラヒドロキシアニソール、ビタミンEおよびその誘導体等の酸化防止剤、ステアリル硫酸ナトリウム、セチル硫酸ジエタノールアミン、セチルトリメチルアンモニウムサッカリン、イソステアリン酸ポリエチレングリコール、アラキシン酸グリセリル等の界面活性剤、エチルパラベン、ブチルパラベン等の防腐剤、オウバク、オウレン、シコン、シャクヤク、センブリ、バーチ、ビワ、カミツレ等の抽出物、グリチルリチン酸誘導体、グリチルレチン酸誘導体、サリチル酸誘導体、ヒノキチオール、酸化亜鉛、アラントイン等の消炎剤、胎盤抽出物、グルタチオン、ユキノシタ抽出物、アスコルビン酸誘導体等の美白剤、ニンジン、アロエ、ゼニアオイ、アイリス、ブドウ、ヨクイニン、ヘチマ、ユリ等の抽出物、ローヤルゼリー、感光素、コレステロール誘導体、各種アミノ酸類等の賦活剤、サフラン、センキュウ、ショウキョウ、オトギリソウ、オノニス、ローズマリー、ニンニク等の抽出物、γ-オリザノール、デキストラン硫酸ナトリウム、等の血行促進剤、硫黄、チアントール等の抗脂漏剤、香料、水、アルコール、カルボキシビニルポリマー等の増粘剤、チタンイエロー、カーサミン、ベニバ

ナ赤等の色剤等を必要に応じて適宜配合して常法により製造することができる。

【0012】本発明の皮膚外用剤は、化粧品（皮膚化粧品、毛髪化粧料を含む）、医薬品、医薬部外品等として、外皮に適用されるものを指し、例えば、軟膏、クリーム、乳液、ローション、パック、浴用剤等従来より皮膚外用剤に用いられるものであればいずれでもよい。その剤型も水溶液系、可溶化系、乳化系、粉末系、油液系、分散系、ゲル系、軟膏系、水-油2層系、水-油-粉末3層系等、幅広い形態を取り得る。

【0013】

【実施例】次に実施例及び比較例を挙げて本発明をさらに詳細に説明する。本発明はこれにより限定されるものではない。配合量は重量%である。

【0014】「実施例1、比較例1、2、3：クリーム」下記「表1」に示す処方のクリームにおいて、ヒオウギ抽出液（ファルコフレックスヒオウギ：一丸ファルコス株式会社製を0.1重量%、アルギニン塩酸塩を0.3重量%を配合し、肌荒れ防止・改善及び皮膚の潤い・はりの効果について使用テストにより評価した。

【0015】

【表1】

成分	実施例1	比較例1	比較例2	比較例3
A. 油相				
セタノール	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%
ワセリン	2.0	2.0	2.0	2.0
スクワラン	7.0	7.0	7.0	7.0
モノステアリン酸グリセリン	2.5	2.5	2.5	2.5
ポリオキシエチレンソルビタン				
モノステアリン酸エステル(20EO)	1.5	1.5	1.5	1.5
パントテニルエチルエーテル	0.5	0.5	0.5	0.5
ホホバ油	5.0	5.0	5.0	5.0
酢酸-DL- $\alpha$ -トコフェロール	0.1	0.1	0.1	0.1
$\gamma$ -オリザノール	0.1	0.1	0.1	0.1
B. 水相				
プロピレングリコール	5.0	5.0	5.0	5.0
グリセリン	5.0	5.0	5.0	5.0
ビーガム（モンモリロナイト）	5.0	5.0	5.0	5.0
ヒオウギ抽出液	0.1	—	0.1	—
アルギニン塩酸塩	0.3	—	—	0.3
メリッサ抽出液	0.1	0.1	0.1	0.1
カミツレ抽出液	0.1	0.1	0.1	0.1
水酸化カリウム	0.3	0.3	0.3	0.3
精製水	残余	残余	残余	残余

【製法】A（油相）とB（水相）とをそれぞれ70℃に加熱し完全溶解する。AをBに加えて、乳化機で乳化する。乳化物を熱交換機を用いて冷却してクリームを製造した。

【0016】女性専門パネル30名により、実施例1のクリームと比較例1、2、3のクリームから2つのクリームを選ぶ6通りの組み合わせで、それぞれを顔の右及

び左半分に4週間使用させた。各組み合わせは5名で独立判定をさせた。結果を「表2」に示す。本発明のクリームは、肌荒れ防止、改善効果を有し、肌に潤い、はりを与えることが分かる。

【0017】

【表2】

評価	実施例1	比較例1	比較例2	比較例3
〔肌荒れ防止、改善を感じた人数〕	10	0	0	4
〔肌の潤を感じた人数〕	10	0	3	3
〔肌のはりを感じた人数〕	10	2	3	0

## 【0018】

## 「実施例2 クリーム」

A. ステアリン酸	10.0%
ステアリルアルコール	4.0
ステアリン酸ブチル	8.0
ステアリン酸モノグリセリンエステル	2.0
ビタミンEアセテート	0.5
香料	0.4
防腐剤	適量
B. メリッサ抽出液	30.0
ヒオウギ抽出液	0.1
アルギニンリン酸塩	0.05
グリセリン	4.0
水酸化カリウム	0.4
エデト酸三ナトリウム	0.05
精製水	残余

「製法」Aの油相部とBの水相部をそれぞれ70℃に加  
熱し完全溶解する。A相をB相に加えて、乳化機で乳化  
する。乳化物を熱交換機を用いて冷却してクリームを得

た。

## 【0019】

## 「実施例3 クリーム」

A. セタノール	4.0%
ワセリン	7.0
イソプロピルミリステート	8.0
スクワラン	15.0
ステアリン酸モノグリセリンエステル	2.2
POE(20)ソルビタンモノステアレート	2.8
ビタミンEニコチネート	2.0
香料	0.3
酸化防止剤	適量
防腐剤	適量
B. グリセリン	10.0
ヒオウギ抽出液	0.1
アルギニングルタミン酸塩	0.3
メリッサ抽出液	0.02
ジプロピレングリコール	4.0
ピロリドンカルボン酸ナトリウム	1.0
エデト酸二ナトリウム	0.01
精製水	残余

「製法」実施例1に準じてクリームを得た。

## 【0020】

## 「実施例4 乳液」

A. スクワラン	5.0%
オレイルオレート	3.0
ワセリン	2.0
ソルビタンセスキオレイン酸エステル	0.8
ポリオキシエチレンオレイルエーテル(20EO)	1.2
ビタミンA油	0.03
香料	0.3
防腐剤	適量
B. 1,3ブチレングリコール	4.5

ヒオウギ抽出液	0.1
アルギニン塩酸塩	0.05
メリッサ抽出液	1.5
ヒアルロン酸ナトリウム	0.5
エタノール	3.0
カルボキシビニルポリリマー	0.2
水酸化カリウム	0.1
ヘキサメタリン酸ナトリウム	0.05
精製水	残余

「製法」実施例1に準じて乳液を得た。

【0021】

「実施例5 ファンデーション」

A. セタノール	3.5%
脱臭ラノリン	4.0
ホホバ油	5.0
ワセリン	2.0
スクワラン	6.0
ステアリン酸モノグリセリンエステル	2.5
POE (60) 硬化ヒマシ油	1.5
POE (20) セチルエーテル	1.0
ピリドキシントリパルミテート	0.1
防腐剤	適量
香料	0.3
B. プロピレングリコール	10.0
ヒオウギ抽出液	0.1
アルギニン塩酸塩	0.05
メリッサ抽出物	0.1
調合粉末	12.0
エデト酸三ナトリウム	0.2
精製水	残余

「製法」

実施例1に準じてファンデーションを得た。

【0022】

「実施例6 化粧水」

A. エタノール	5.0%
POEオレイルアルコールエーテル	2.0
2-エチルヘキシル-P-ジメチルアミノベンゾエート	0.18
香料	0.05
B. 1,3ブチレングリコール	9.5
ヒオウギ抽出液	0.1
アルギニン塩酸塩	0.05
ピロリドンカルボン酸ナトリウム	0.5
メリッサ抽出液	5.0
ニコチン酸アミド	0.3
グリセリン	5.0
精製水	残余

「製法」Aのアルコール相をBの水相に添加し、可溶化して化粧水をえた。

【0023】

「実施例7 二層型化粧水」

A. エタノール	15.0%
メチルパラベン	0.1
メントール	0.05

ジブチルヒドロキシトルエン	0.001
ビリドキシシ	0.005
POE(60)グリセリルモノイソステアレート	0.5
酢酸トコフェロール	0.01
香料	適量
B. プロピレングリコール	4.0
アラントイン	0.2
食塩	0.1
ベントナイト	1.0
タルク	0.5
セルロース末	0.5
シリカ	1.0
酸化亜鉛	0.5
グァーガム	0.5
コンドロイチン硫酸ナトリウム	0.1
トリメチルグリシン	5.0
乳酸	0.1
乳酸ソーダ	0.05
ヒオウギ抽出液	0.1
アルギニン酢酸塩	0.05
ヒドロキシベンゾフェノールナトリウム	0.1
精製水	残余

「製法」Aのアルコール相を、よく攪拌分散したBの水 【0024】  
相に加え攪拌混合して二層型化粧水を得た。

「実施例8 バック」

(1)ポリビニルアルコール	10.0%
(2)ポリエチレングリコール(分子量400)	0.4
(3)グリセリン	3.0
(4)ヒオウギ抽出液	0.1
(5)アルギニンアスパラギン酸塩	0.05
(6)エタノール(95%)	8.0
(7)メリッサ抽出液	0.1
(8)イノシット	0.1
(9)防腐剤	0.1
(10)香料	0.1
(11)精製水	残余

「製法」室温で(6)(9)(10)を混合溶解し、(1)(2)(3)および(4)(5)(7)(8)(11)を80℃で混合溶解した中に攪拌添加した後、室温まで放冷してバックを得た。

【0025】

【発明の効果】本発明によれば、ヒオウギ抽出液とアルギニンおよび／またはその塩とを配合することにより、肌荒れ防止・改善効果及び皮膚の潤い・はりの消失を防いで老化を防止する効果を有する皮膚外用剤を提供出来る。